令和元年度仁淀川清流保全推進協議会第１回全体会　議事要旨

日　時：令和元年６月 11 日（火）14:00～16:00
場　所：いの町役場　１階　いのホール
出席者：［委員］石川会長、井上副会長、大下委員、近澤委員、中澤委員、河合委員、
　　吉村委員、山﨑委員、森下委員、久保所長（代理：岡林副所長）（10 名）
　　［随行者］四国森林管理局　増原流域管理指導官（１名）
　　［傍聴者］（株）相愛　公文（１名）
　　［事務局］環境共生課　三浦課長、松尾課長補佐、遠近チーフ、田中主査（４名）

１　高知県林業振興・環境部環境共生課長あいさつ
・今年度は計画の改訂を予定している。
・改訂について意見をいただき、計画へ反映したい。

２　議事
（１）平成 30 年度事業報告及び収支決算について
・事務局から【資料１－１、１－２】を用いて説明
・河合監事から監査報告があり、各委員の異議がなく承認された。

（２）令和元年度事業計画及び収支予算（案）について
・事務局から【資料２－１、２－２】を用いて説明

【主な意見】
（近澤委員）
　ライフジャケット 23 着っていうのは 23 着足りないからか。
⇒（事務局）
　もう少し増やしたいので、あと２着買う予定である。
（石川会長）
　今年購入して安全教室やガサガサの時に子どもに着用してもらうことを検討しているが、申し込みがあればいろいろな方にも貸し出しできるような仕組みをつくっていかなければならないと思っている。
（井上副会長）
　この間ストーンペインティングを実施した際に、参加されたお母さんがどこへ子どもを連れて行っていいのかわからないと言っていた。人がいないところへ連れて行ったが、地元の人に「そこは泳いじゃダメだよ」と言われたと聞いた。そういう場所は

わかりやすくする必要がある。
（近澤委員）
　上流域は今、どんどん町そのものが衰退している。だから、安全な観光資源に対しては上流にお金の形で還元していかないといけない。安全に遊べる河川環境についてはなんとか協力したい。
（大下委員）
　先日、小学生の子どものいるお母さんから連絡があり、井上副会長が仰ったように「どこで遊んだらいいですか？」と聞かれた。そのお母さんは、国交省が作っている安全マップがあることは知っていたが、そのマップがどこにあるかわからないということだったので、ホームページに掲載されていることとコンビニ等に置いてあるという話はさせてもらった。
　加えて、RAC アシスタントリーダー講座について、学校の先生方に案内していただけないかという話もしてしているが、先生方にそういう講座の話がなかなか届きにくいという状況や、忙しいという状況もあるかもしれない。アシスタントリーダーやリーダーが各地にばらけていけばライフジャケットに関してもここにあるからというような話をできるんじゃないか。

（中澤委員）
　仁淀ブルーライドに係る寄付金について。既に５月 26 日に第２回目のブルーライドが終わった。今年は、約 550 名の方が参加している。おそらく昨年度よりは多くの寄付が入るのではないだろうか。全国に向けて仁淀川を売っていくチャンスだと思っているので協力をよろしくお願いしたい。
⇒（石川会長）
　寄付金が増えるということであればライフジャケットを買い足したり、環境教育の教材に使わせていただいたりとかしたいと思う。

・令和元年度の事業計画及び収支予算（案）について、各委員の異議がなく承認された。

（３）仁淀川清流保全計画改訂について
・事務局から【資料３－１、別紙９、参考３、参考４】を用いて説明

（山﨑委員）
　あまり関係ないかもしれないが、清流ということで、カジカガエルは清流じゃないと鳴かないので、上流で鳴いていても下流へ行ったらあるところでピタッと鳴かなくなる。それからここらあたりは住みにくいんだなあということが一つ目安として分か

る。

加えて、10 年くらい前と比べてホタルの数がずいぶん違い、最近増えたような感じがするが、ホタルが飛んでるところと飛ばないところがある。

これらの情報を地図の上に落としていくと面白いんじゃないかなと。

（石川会長）

確かに面白いと思うが、その情報をどうやって集めるか。

（近澤委員）

こういう席でここでホタルいたとか、カジカガエルの鳴き声をここで聞いたなどを各自が報告をする。

（石川会長）

カジカガエルに関しては、私は仁淀川でそこら中で観察会をやってるのでどこも変わらず鳴いてることと把握してるが、ホタルは把握しきれてない。

（大下委員）

今回の改訂で、コラムに入れられるものは入れるなどの検討をしていくことになるのかなと聞いていた。大きな改訂ができないというのは、取組項目の見直しのような形で微修正を加えていく感じで考えていいのかなと思っている。

加えて、読みにくいようであれば目次の順番などは考えていかないといけないのかなと思う。そういう考え方で計画改訂は考えているということでよいか。

⇒（事務局）

高知県清流保全基本方針に基づくものなので、今回は大きな改訂を考えてはいない。ただし、取組項目を見直し、一歩取組を進めていくという意味では、今回見直す箇所は小さくはなるが、中身的には大きく進むことになると考えている。また目次については、環境共生課の事務の中で検討させていただきたいと考えている。

（山﨑委員）

ゴミマップについて。ゴミの収集をするときに、可燃、不燃、プラスチックの３つに分類したらプラスチックの多い場所がわかり面白いと思う。

⇒（事務局）

ゴミマップを考えていくときに、どのようにゴミを分別していくかをワーキングの中で話し合っていくが、一斉清掃では流域の市町村に処分をお願いすることになるので、そことのやりとりも含めながらその方向でまた検討させていただきたい。

（大下委員）

結局、以前からこの会でも話し合ってるように、拾うのは最終手段であり、本当は捨てない仕組みを作りたいなと。ワーキングの中ではごみ勉強会をということで、ゴミ拾いがすごくネガティブなものだけじゃなくて、積極的に拾って楽しむということ

や、捨てない仕組み作りみたいなところにも新しく取り組み始めたというようなところをコラムで紹介していただけるのであれば、少しでも仁淀川をきれいにしたいっていう人が増えてくれるんじゃないかなっていう期待はある。ワーキングの中では是非そういった形でコラムに入れていただけないかなと話はしている。なかなか取り上げにくいような話とか時事ネタに近いようなこともあろうかと思うが、それがコラムとなって、手に取られる方が読みやすい読み物になっていくというのも一つ大事ではないかなと思うので、私自身はコラムがこういう計画の中に入ってくるのは非常にありがたい。特に生物多様性の地域版の戦略の中にもコラムが結構多用されていて、冊子がものすごい分厚かったが、コラムはすごく読みやすかったので、県民の方が読まれれば、今何が進んでるかとか、どういう問題があるかとか、そういうのはわかりやすくていいかなと思っている。

（4）その他

（井上副会長）

仁淀川町を中心に、最近にこ淵のガイドも始めたが、お客さんから「入谷料」というのか、中津渓谷などへ入るときに 100 円でも取ったらいいのにと言われることも増えた。駐車場の舗装だとか、ガードマンを雇うだとか、行政に頼らずにそこで自立する仕組みを作りませんかっていうのは、お客さんの方から言われる。

それからドイツで観光を勉強してきた人の話を聞いたことがあるが、観光税を一人 150 円そこへ来ると払うそうだ。それによって観光に関わる国の中のお金は、税金の中から賄う。例えば仁淀川へ来たらどっかでその観光税を払ったら 1 年間は僕らのガイドやったら 300 円安くなるなど何か特典を与えるみたいなことで、ゆくゆくはもう自立するような形で、そういう収入源も自分たちで得ることができないか。

今度、仁淀ブルー観光協議会から仁淀ブルーについていろんなガイドさんがお話しした内容が一冊の本になって発売される。清流保全推進協議会じゃなかなかやりづらいが、仁淀川流域でそういう集めたデータとかを無料であげるんじゃなくて本にして販売して、それを自分たちが活動する原資にしていくという仕組みが将来できてくれば、「補助金が出ないからできない」とかそういうことではない、「自分たちがやりたいことを自分たちでできる」みたいな組織になっていくのかなと最近思った。

（大下委員）

利用する側によってサービスの質が低下することは、持続的な観光のあり方としてはやはり間違ってるのかなと思う。なので、その利用に見合ったお金を払うことで、お金払いたくなかったら来ないよねということで人の数をコントロールするっていうやり方もあるのかなと。今やはり気にしてるのが、波川公園。いのの役場の方に見さ

せていただいたんですけども、無料で利用できることもあってか、河川敷（川原）にゴミを捨てて行かれる方がいる。結果的にいの町の職員さんが出て行って、負の部分の解消をされている。結果、いの町の住民サービスは落ちているわけである。それがいの町の税金でまかなってて、来てる人は全くそこのお金を払うことなくマイナスだけ落として行くっていうのが本当に観光として正しいやり方ですかっていうのは、持続っていうことを考えるとゆくゆくは来ないでくださいっていう話に繋がらないかなっていうのを心配している。

（吉村委員）

遊漁証を買って釣りに行った人達から、「鮎が小さい」「いない」というクレームが多い。鮎は結構いるが、小さい。河川状況が良くないと、鮎が育たない。色々勉強させて貰っているが、やはり藻が生えないっていうのが１番である。先だって久保所長には、もう少し、砂を土砂を取り除いて荒い川にしてほしい、石を掘り起こしてほしいっていうお願いをした。それは仁淀川だけじゃなく、県下含めて全国の川でそういう状態になりつつあって、鮎が全般的に少なくなっている。鮎がたくさんいるということは清流であるということで、清流を保つためにはやっぱり河川を綺麗にするということである。これはやっぱり環境の問題であると思うので、流域全体で個人個人が考えることと、行政にも考えて貰わないと、益々川が荒廃していく。

（石川会長）

水質で見れば、すごく綺麗な川だが、水質以外の要素は川の中に棲んでいる生き物にとっては非常に重要だと思う。やはりどしっとした動かない石があってほしいなというのは虫でも同じこと。仁淀川に限ったことではなく、県内どこの河川も砂利が増えたという問題が多くなっている。

（岡林副所長：代理）

結局は山が荒廃化してきているという話もあって、石が小さい分だけが流れてくるということと、あと大きい工事はあるものの、河床に草が生えて固定化されているため、意外と撹乱されてない。結局は流れるところはそこだけ流れて、そこばかり掘られていくし、逆にそれ以外のところは掘られずに段々高くなっていくっていう、二極化現象が起こり、どこの河川も荒廃化していくという話がある。直轄区間については今年も掘削に入っていき、それに併せて改善していこうという動きはあるが、流域全体で考えるとどうしても十分改善というのができてない。そこはこういう場で上流から下流までどうしていったらいいかを話していくことが大事かと思う。

水質については、昨年はちょっと少し水質が悪かったという話があったが、おそらく今年は大丈夫だと思う。これからも清流を保全する必要があるので、やっぱりゴミ

についてはマナーの向上ができるように取り組んでいただいたらありがたいなと思っている。

（吉村委員）

今岡林さんも言われたように、河床に草が生えてくるとそこで水の流れが阻害されて小さい砂なんかが溜まってしまう。

河川の岸が洪水じゃないのに崩れていき、砂ばかりがどんどん流れていく。そういう現象がもう今の状態で起きている。

（石川会長）

国土交通省で河川の水質を発表されているが、あれは BOD についてである。1 位と 1 位じゃないというところにはほとんど差がなく、BOD が 0.5 か 0.6 かぐらいの差。

最近気になるのはやっぱり濁り。細かいシルトがすごく川の中に増えていると思う。見た目の濁りと BOD の濁りというのは全然違うもので、澄んでるからといっても BOD が高い川もある。

（山本委員）

私たちは河川までは管理してないのだが、川の水が多少濁るというのも、今県が目標とする 78 万立方メートルの原木生産に向けてとにかく、どこの市町村も増産に取り組んでるところと思う。仁淀川町では聞いたことはないが、吾北の方では粗道の作業路へ向いてかなり谷が濁ったという話をよく聞く。粗道を縫って大雨が降るとかなり谷から濁り水が仁淀川へ入っていくのは確かに見る。

また、山にあんまり関心がなくなってしまい、「県外におるから山を放棄したい」という電話が最近よくかかってくる。環境贈与税もできたので、仁淀川町には相談している。放置林がものすごい増えていることも、先ほどのコケが育たないという話にも関係しているのではないかという気はしている。

（中澤委員）

整備できないところは市町村が管理するという法律が 4 月にできた。だが、実際に管理できる市町村は佐川町と大豊町だけ。他の市町村は困っているという。

（森下委員）

先ほども紹介があったように、新たに森林経営管理法と、森林環境税及び贈与税ができた。もちろん所有者が管理することは大事だが、現実はうまくいかない。道もなく、切り出すにもコストがかかり、生産が成り立たないようなところを市町村が管理をする。譲り受けるという場合もあるが、市町村は譲り受けずに新しい法律の下で管理する権限

を持てる。間引き率の高い間伐をし、下から広葉樹が生えてきて、針葉樹と広葉樹の複層林、混合林になっていくような森にしていこうということが一つあるが、一方で先ほど言われたように、切ったところについては県の取組でぜひそこは植えていただこうと。今切り出ししてるところは大体道があったりとかで、切り出ししてもなんとか採算が合うというところは切り出ししているので、そういうところは植えていただこうということ。また、お話にもあったようになかなか山への関心、代替わりされてたり不在村であったり、あるいは植えてもなかなか採算に合わないとか、そんなお話があってなかなか進んでいない。

今再造林率は高知県で 40%前後。なのでそこは植えていただくようにしようということで、一つは林業のコストを下げて、採算が取れるように少しでもしていかないけないということで、機械のことであったりとか、それから今までは切るときと植えるときと別々で、時期も別々であった。これらを一つの流れの中でやっていき、コストを下げる「一貫作業システム」に国有山ではだいぶ早くから取り組まれているが、それを民間の山にも広げていけないかと。県と森林組合、木を切る業者なんかが一緒になって、所有者にそういうお話もしていこうということで、しっかり力を入れていくようにする。切ったところはできるだけ植えていただき、かつて植林し今放置されてるところはできるだけ広葉樹との混合林にして、環境に適合するものに戻していこうという大きなデザインを持った取組は始まったところである。市町村もなかなかマンパワーの問題とかもあって、言われたようにすぐに動けないところもあるが、県もそういうところは支援をして、どうしても市町村ができなければ代わりに県がやるというようなことも含めて、取り組んでいきたいと思っている。

また、新たに税ができたことで管理するためのお金が市町村に行くようになっているので、それでもって対応していこうということだが、市町村は今までやってない取組になるので、そこは県が一緒になってやりましょうということで今進めている。時間は少しかかるかもしれないが、少しずつでも進めていきたいと思っている。

（河合委員）

森林関係の取組状況は森下副部長からおっしゃっていただいたとおりなので、付け加えることはないが、国有林の管理をやっているので、国民の皆さんからお預かりしている森林に対して、我々が関係をしながら管理していることだとか、いろんな新しいこと、例えばドローンを使った森林調査や、木を植える本数を減らしてコストを下げるなどいろんなことに取り組んでいる。

高知県との意見交換もさせていただいているし、市町村の方々に我々がやってる森林管理の研修にも来ていただくようお声がけもしているので、皆さんに見ていただきながら、いろんな取り組みを進めていきたいと思っている。

（石川会長）
　最近仁淀川町にも、横倉山にも鹿が出没するようになってきた。物部川は鹿がもう蔓延してしまってからだったので、駆除になかなか苦労されている。鹿が増える前に鹿の頭数をコントロールして、荒れないようにと思っているが、県では何か対策を考えているか。

（三浦課長）
　高知新聞にも記事として掲載されたが、希少野生植物についてはネットを張って保護をする。大本のニホンジカについては、県で言えば鳥獣対策課、あと実は近辺には保護区があるので地元の役場と話をしてどうするのか対策を検討してるところである。

（石川会長）
　やはりシルト分に着目したら、山についてもいろいろと考えないといけないなという思いがある。

閉会